

経済連情報 10

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2023.10
● NO.1309

静岡茶の販路拡大と 販売強化に向けた取組について



▲家電製品商談会で県産米をPR



▲第46回静岡県いちじく果実品評会

Main topics

静岡茶の販路拡大と
販売強化に向けた取組について01

topics&news

有利販売に向けた取り組み

夏期チンゲンサイ査定会・販売対策会議 ...03

産地の維持・強化と組合員の所得向上に向けて

営農経済センター長研修会を開催03

わさびをテーマに実施

令和5年度IPM技術指導者養成研修第1回研修会 ...03

学生が県産農産物の消費宣伝企画を提案

令和5年度インターンシップを開催04

県産農産物をPR

ラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」で
「みかんシャーベット」を紹介04

ECサイト積極活用に向け

JAタウン担当者研修会を開催04

茶の審査技術競う

第38回静岡県茶生産青年茶審査技術競技会 ...05

消費拡大に向け実施

家電製品商談会で県産米をPR05

いちじくの品質向上を

第46回静岡県いちじく果実品評会06

QRコード決済で利用推進

JA-SSでキャンペーンを実施06

最新研究紹介

新樹形による省力的栽培管理技術の開発...07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ...09

産地直送通販サイトJAタウンからのお知らせ ...09

JAグループ「実りの秋!国産国産JA直売所キャンペーン」のお知らせ ...10

静岡茶の販路拡大と

販売強化に向けた取組について

Ⅰ はじめに

本誌では、令和3年度に「静岡茶の消費拡大に向けた取組」、令和4年度には「茶をめぐる情勢と茶業部の取組」と題し、最新の情勢を踏まえた本会茶業部の取組を紹介しました。今回のメイントピックスでは、本県の茶情勢を踏まえ、茶業部が「J-A静岡経済連2か年計画」の重点項目に定めている、茶の販路拡大と販売強化の取組について紹介します。

Ⅱ 茶をめぐる情勢

1. 生産動向

本県の令和4年度荒茶生産量は、28,600トンで、前年から約4%減少しました。茶期別生産量では、リーフ茶向けとなる一番茶が10,500トンとなり前年から約8%増加しましたが、地域・工場間格差が大きく、摘採が早い地域では増産、山間地や摘採が遅い地域では減産の傾向でした。（生産量データ：農林水産

省「令和4年度作付統計調査」。また、本県における茶の栽培面積は、減少に推移しています。

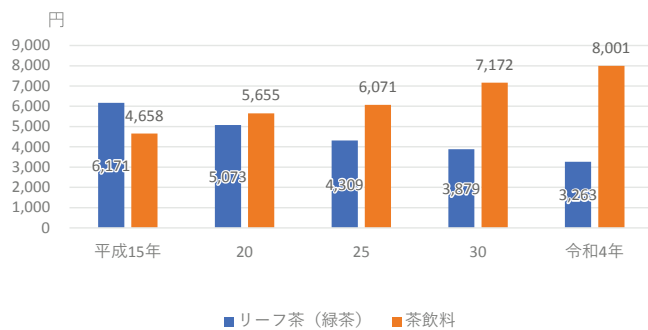
本会は、県及び国の各種補助事業の県下窓口となり、改植等支援や燃油高騰対策などに積極的に取り組み、活用を呼びかけています。改植等支援では、改植による若返りや優良品種への転換、台切や棚施設などの導入による高品質化、有機栽培への転換など補助事業を活用した指導を実施しました。

2. 消費動向

1世帯当たり緑茶（リーフ茶）・茶飲料の金額ベースの消費量では、リーフ茶が前年に引き続き減少する一方で、茶飲料の消費が増加傾向にあり、ドリンク需要が高まっています（表1）。

海外への輸出状況では、令和4年度の緑茶輸出数量、輸出額はともに過去最高となりました（表2）。近年、健康志向や日本食への関心の高まりなどの背景から、アメリカや台湾、東南アジア圏などを中心に日本

表1 茶類の1世帯当たり年間品目別支出金額



出典：総務省「家計調査年報」

茶の認知が拡大し、海外での消費が増加しています。最大の輸出国であるアメリカでは抹茶の根強い人気から粉末状の緑茶が全体の輸出額の7割程度を占めています。その他、台湾やEU圏などではリーフ茶が比較

表2 緑茶の輸出状況



出典：財務省「貿易統計」

的好まれる傾向にあります。以上の消費動向により、国内外の多様化した消費者ニーズへの対応や輸出拡大に向けた生産・流通体制の構築が求められています。

III 茶業部の取組

茶業部では、リーフ茶の消費減少など、変化する茶の消費動向や需要に対応し、国内外への販路拡大や販売強化に向け、次の取り組みを実施しています。

1. 消費宣伝

コロナ禍による制限などが緩和される中、令和4年度はイベント関連の消費宣伝活動を再開しました。

令和4年5月に本会直営焼肉店「駿府の肉処 静岡そだち」で、来店客に新茶を振る舞うイベントを開催し、店舗内での販売も行いました。11月には、静岡市内で開催された「世界のお茶まつり」に出展し、本会商



▲世界のお茶まつりへの出展

品の「静岡茶 揉一ひとえ」やお茶を使用した菓子などの販売と来場者へお茶の試飲を実施し、静岡茶の魅力を発信しています。

令和5年度は仕上茶取引先との結びつきを強め、原料供給拡大に取り組みます。また、茶商との競合の中、



▲静岡茶を試飲する来場者



▲アメリカでのフードエキスポに出展した本会ブース

JAならではの付加価値のある商品づくりと販路開拓（品種・被覆・機能性・多用途他）を進めていきます。

2. 輸出事業

東南アジアとアメリカへの茶の輸出の維持とともに、需要の高まる海外市場に向け、緑茶販路拡大プロジェクトの実践に取り組んでいます。本年度は、流通開発課と連携し、販路拡大の取組として9月にアメリカ



▲水出しで提供した海外向けのティーバッグ茶「Shizuoka Premium Select」▲



で開催された貿易会社主催のフードエキスポに参加しました。エキスポは、コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となり、過去最大規模の2400人以上が来場しました。日本企業140社以上が出展し、現地のバイヤーへ商品提案を行いました。本会が出展したブースでは、一番茶を使用したティーバッグを水出し茶で提供し、日本食レストランなどの経営者に向けて静岡茶をPRしました。「優良な静岡茶を有料で提供するプロジェクト」に取り組み、現地外食レストランの販売累計店舗数は150件となりました。

IV おわりに

今回のメイントピックスでは、最新の茶をめぐる情勢から本会茶業部の販路拡大と販売強化の取組について紹介しました。

茶業部は、さらなる国内外への販路拡大と産地維持に向けて、流通販売業者との契約生産の推進など、茶産地における生産販売対策の提案を行い、県下JAとともに本年度も引き続き静岡茶の振興に取り組んでいます。

問い合わせ先

● 茶業部 茶業課

電話・054-284-9719

夏期チンゲンサイ査定 会・販売対策会議

名古屋事務所は7月26日、大阪市の大果大阪青果(株)で、チンゲンサイの品質査定会と販売対策会議を開き、関西と中京地区の市場17社とJAとびあ浜松、JA遠州中央の担当者が参加しました。

査定会および販売対策会議は、他産地と比較による供給責任産地としての意識向上や生産維持拡大、情報共有による連携強化と有利販売などが目的。3月上旬に続き2回目の開催となり(本誌5月号掲載)、全国16産地から出荷されたチンゲンサイを査定しました。

夏場の気温高による厳しい生産環境の中、葉先の枯れやポリウム不足が懸念されたものの、本県産のチンゲンサイは傷みが少なく、高い品質評価を得ました。



▲品質を確認する関係者ら

産地の維持強化と組合員の所得向上に向けて 営農経済センター長研修会を開催

JA静岡中央会と生産振興開発課は8月18日、県農業会館で「令和5年度営農経済センター長研修会」を開催し県内8JAの営農経済センター長ら18人が出席しました。営農経済センター長の役割を再確認し、各営農経済センターの取組や課題について情報交換を行うことが目的。

研修会では、滋賀県立大学の増田佳昭名誉教授と中央会農政営農部、本会生産振興開発課による講義を行いました。また、事例報告としてJA金沢市担い手支援室の押田哲男室長が講演し、TAC活動の取組事例や農業者の育成、労働力支援などに積極的に取り組んでいることを報告しました。

その後は分散会を行い、グループワークを通して各JAの取組や営農経済センターの活動について意見交換を行いました。



▲講義する生産振興開発課の若月敏明審査役

わさびをテーマに実施

令和5年度IPM技術指導者養成研修第1回研修会

静岡県産地技術課題解決研究会(事務局:生産振興開発課)と県は8月23日、伊豆市の静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センターで「令和5年度IPM(総合的病害虫・雑草管理)技術指導者養成研修第1回研修会」をオンラインで開催し、関係者ら約50人が参加しました。IPMに関する専門知識を持つ営農指導員の養成が目的。産官学技術交流事業の一環として行われ、今回はわさびをテーマとして開催しました。

同研究所わさび生産技術科の久松奨科長は、「わさび田とわさび栽培について」、片井祐介上席研究員は、「わさび田での病害虫管理」について



▲参加者にワサビのサンプルをオンラインで紹介する同研究所職員ら

講義しました。水質汚濁や水産動植物への影響から農薬使用が規制されるわさび田では、農薬使用者の講習受講義務や水系のモニタリング調査などが必要になるため、パイプ栽培やBT剤によって病害虫防除を行っていることを説明しました。実習では、採集した害虫や墨入り病に感染したわさびを研究室からの中継で紹介し、参加者は理解を深めました。

営農総合対策部の三橋民和部長は「病害虫の防除と併せて、世界に誇るわさびの伝統的な生産環境を多くの方に理解してほしい。」と話しました。



▲オンラインで講義を受ける本会職員(本会会議室にて)

学生が県産農産物の消費宣伝企画を提案 令和5年度インターンシップを開催

人事教育課は8月28日と8月30日の2日間、就職活動中の学生に就業体験を通じて本会の事業内容や役割を知ってもらうため、大学生を対象としたインターンシップを開催しました。28日は静岡市葵区で対面にて開催し、30日はオンラインでの開催となり、2日間で学生約50人が参加しました。

インターンシップでは、人事教育課より本会事業概要について、野菜花卉課からは、青果物の流通について県産農産物の生産状況や品目の紹介などを交えて説明しました。

参加した学生は、レタスの分荷作業に挑戦し、販売情報センターで実



▲野菜花卉課による講義の様子

際に行われる業務を疑似体験しました。グループワークでは「青果物の消費宣伝」をテーマに、イチゴやワサビなどの青果物売り出す企画をグループごとに提案し、それぞれの考えを発表しました。

プログラムの最後には、今年度入会の若手職員2人が学生に向けて就活アドバイスを行いました。



▲グループワークで意見交換をする学生ら

県産農産物をPR

ラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」で「みかんシャベット」を紹介

流通開発課は8月5日、JA全農が提供するTOKYO FM（JFN 38局ネット）のラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」（毎週土曜日13時〜放送でJAみっかびの「三ヶ日みかん 凍らせてシャベット12個入り」を紹介しました。同番組は、最新の音楽チャートを紹介しながら各地の旬の農畜産物を毎週紹介しています。

同日の放送では、パーソナリティを務めるジョージ・ウィリアムズさんと安田レイさんが提供商品を試し、インターネット通販サイト「JAタウン」で購入できることをPRしました。

※紹介商品の販売は8月末で終了しました。



ECサイト積極活用に向け

JAタウン担当者研修会を開催

流通開発課は8月10日、県農業会館で、JA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」の担当者研修会を開き、県内JAの「JAタウン」担当者ら13人が参加しました。研修会は、初開催となり、コロナ禍の影響などでECサイトの需要が高まる中、JA担当者の情報交換の場を設け、課題解決や商品開発につなげることが目的。

JA全農eコマース事業課の松井透担当より、今年度の「JAタウン」の取り組みとして、流通額や会員登録者数などの実績が好調であることや、他県での優良事例などを報告しました。

流通開発課の中瀬諒亮係長からは、県域シヨップとしてJAタウンに出店する「しずおか『手しお屋』」の販売促進の取り組みや売り上げ分析、商品開発のヒントなどを説明しました。参加者は、販売促進や発送対応での疑問点、各JAの取り組み状況などを共有し、JAタウンの積極活用に向け、連携を強めました。



茶の審査技術競う

第38回静岡県茶生産青年茶審査技術競技会

静岡県茶生産青年会（事務局…茶業課）は8月29日、静岡市葵区の（株）静岡茶市場で「第38回静岡県茶生産青年茶審査技術競技会」を開き、県内9JAから12チーム（JA大井川は3チーム、JA遠州中央は2チーム、55人が参加しました。競技会は、茶生産青年の技術向上と連帯意識の高揚を図り、茶の品質を判断する技術の錬磨が目的で、新型コロナウイルスの影響により、4年ぶりの開催となりました。

参加者は、茶の外観による生産地の判定や、飲み比べによる生産地、品種判定の3つの審査を行いました。団体の部の1位、個人の部の1～5



▲茶の外観から生産地を判定する参加者

位がそれぞれ入賞となり、競技の結果、団体の部はJA遠州中央Aチームが、個人の部はJA遠州中央の丸尾基さんが1位に輝きました。個人の部の1位の丸尾さんは「難しかったが、落ち着いて取り組めた。全国大会でも上位を目指す。」と意気込みを語りました。個人の部の上位10人は、10月27日に福岡県八女市で開かれる全国大会に出場します。



▲飲み比べによる審査の様子



消費拡大に向け実施

家電製品商談会で県産米をPR

食糧課は、9月20日～22日の3日間、静岡市駿河区のツインメッセ静岡で開催されたパナソニックマーケティングジャパン(株)中部社が主催する「パナソニックパートナーズ商談会」に参加し、本会のブランド米「静岡そだち（静岡県産コシヒカリ）」を中心に県産米の消費拡大のため、PRを実施しました。

イベントは、量販店や地域店などの同社製品の取扱店向けに家電製品を提案することが目的。「静岡そだち（静岡県産コシヒカリ）」は、調理器具PRブースの同社製炊飯器で炊いた米の試食品として使用し、来場者に提供しました。

また、食糧課の担当職員が、同ブー



▲県産米を紹介する杉本耀介担当

スの「調理セミナー」に参加し、米の豆知識や適切な保管方法などを紹介した他、消費宣伝として県産米の銘柄と特徴を説明し、来場者にPRしました。

会場では、セミナー参加者などへ本会商品のメッセージライスを配布しました。



▲配布されたメッセージライス



▲炊飯器のPRに使用された「静岡そだち（静岡県産コシヒカリ）」

いちじくの品質向上を

第46回静岡県いちじく果実品評会

静岡県果樹振興協会（事務局：相模果樹課）は9月14日、県農業会館で「第46回静岡県いちじく果実品評会」を開きました。県産いちじくの品質改善と生産者の技術向上を図り、産地を維持することが目的。

審査対象の品種は「樹井ドーフィン」で、8J Aから34点が出品されました。静岡県農林技術研究所果樹研究センターの松浦英之センター長が審査長を務め、静岡県や農林事務所職員など審査員10人が、外観や糖度、充実度、食味などを規定に基づいて審査しました。出品物の平均糖度は15.0度で昨年の13.8度を上回り、最

高は19.1度でした。

出品物は、9月15日に静岡市清水区のイオン清水店で販売しました。上位入賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJ A名）

金賞

静岡県知事賞

静岡県京浜地区果実流通協議会会長賞

矢部 光良（J A掛川市）

銀賞1

静岡県経済産業部長賞

静岡県経済農業協同組合連合会代表理事理事長賞

土井 春雄（J A遠州夢咲）

銀賞2

静岡県農林技術研究所果樹研究センター長賞

平野 秀直（J A遠州中央）

銀賞3

静岡県農業協同組合中央会代表理事会長賞

堤 保行（J Aみっかび）

銅賞

太田 雅俊（J A遠州中央）

水嶋 浩喜（J Aハイナン）

北川 佳延（J Aふじ伊豆）

大塚 昭雄（J Aおおいがわ）

横井 道明（J Aみっかび）

鈴木 美佐（J A遠州夢咲）

牧田 高幸（J A静岡市）



▲審査の様子



▲銀賞3



▲銀賞2



▲銀賞1



▲金賞を獲得した矢部さんのイチジク

QRコード決済で利用推進

J A I S Sでキャンペーンを実施

総合エネルギー課は、9月1日～30日の1か月間、県内33カ所のJ A I S Sで利用できるQRコード決済サービス、PayPayのクーポンキャンペーンを実施しました。期間中にアプリ内の該当ページからクーポンを獲得した利用者に、決済金額に対して最大5%のポイントを付与しました。

県内J A I S Sでは、QRコード決済の急速な普及と利用者の増加に伴い、積極的な導入を進めています。QRコード等のキャッシュレス決済の導入や親和性の高いLINE公式アカウントなどの販促ツールを活用し、新規顧客の獲得や燃料油の取り扱い拡大に取り組みます。



▲キャンペーンをPRする担当職員

新樹形による

省力的栽培管理技術の開発

一 はじめに

果樹は生産者の高齢化などから担い手の減少が続ぎ、栽培面積も減少しています。本県の主要品目である温州ミカンも全国的に供給量が不足してきており、国はこれまでの生産過剰を防ぐ方針から、生産基盤を強化し積極的に生産拡大していく方針に転換してきています。このため、生産現場では、担い手への農地集積による規模拡大を進めるとともに、生産性を向上させ、生産量を維持拡大していくことが重要となります。

二 双幹形樹形による管理作業の軽労化

温州ミカンは収穫や運搬、せん定や施肥など労働負荷の大きな作業が多いため、これから規模拡大をするにあたり、管理作業は体への負担が少なく、時間は短く、栽培経験の少ない被雇用者でも出来るように、わかりやすいことが求められます。

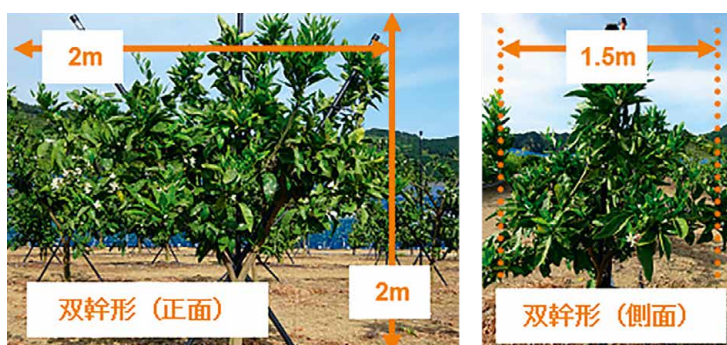


写真1 青島温州の双幹形樹

双幹形樹形（写真1）は、果樹研究センターで技術開発している青島温州の新樹形で、二本主枝に側枝を配置した単純な樹形で、正面から見ると「Y字」型の仕立てになっている。樹高を2m程度と低くすること



写真3 作業者に自動追従したり自律走行で運搬するロボット



写真2 中腰姿勢

で脚立を使用した作業などが不要となります。また、樹幅を1.5m程度にすることで平面的な樹形となり、立体的な開心自然形に比べ、摘果や収穫作業において樹冠内での中腰姿勢（写真2）の割合が少なくなるなど（表1）、作業の軽労化が図られます。

三 垣根仕立てと機械せん定による省力効果

さらに、双幹形の二本の主枝を

表1 樹形と摘果方法の違いが「青島温州」（8年生）の収量と収穫時間に及ぼす影響

樹形	摘果方法	収量		収穫時間		中腰姿勢の割合(%)
		kg/樹	kg/樹容積 ^{m3}	秒/果	秒/kg	
双幹形	片面交互	17.3	32.5	5.5a	32.5	22.2
双幹形	間引き	12.9	33.7	6.2 b	33.7	19.5
開心自然形	間引き	13.6	35.5	6.5 b	35.5	26.2
有意性 ^z		n.s.	n.s.	**	n.s.	n.s.

^z 分散分析により**は1%の水準で有意差有り。異なる文字間にはTurkeyの多重検定により5%水準で有意差あり

作業道と平行に列状に配置する垣根仕立てにすることで、着果が面状となり、作業動線が直線状に単純化さ

私が紹介します！

静岡県農林技術研究所
果樹研究センター
果樹生産技術科 主任
中島 輝子



写真4 チェンソーで面に沿って切除

れることから、チェンソーなどを使った機械せん定や小型の運搬ロボット（写真3）の導入も可能性が高まります。

チェンソーを使った省力せん定では、主幹から50cmを目処に面に沿って側枝を切除することで（写真4）、ハサミを使った間引きせん定に比べ、作業時間は大幅に短縮し、せん定後の着花数や新梢の発生数には影響がありませんでした。一方、チェンソーだけではせん定不足の樹もみられたため、トリマーでのせん定や間引きせん定を組合せ、樹形を維持しつつ、翌年の収量を確保するために、結果母枝が多く得られるせん定方法について、現在試験を行っているところです。

四 初心者やさしい着果管理

温州ミカンの摘果は間引き摘果が一般的で、連年安定生産のために果実をどのくらい残すか？、また摘果で落とさなくてはいけない果実はどのような物か？、樹毎に判断しながら作業します。このため、初心者は経験者に教えてもらいながらの作業になり、時間がかかってしまいます。

隔年交互結実栽培は、果実をならせる生産樹とならせない遊休樹を設定し、一年おきに交互に結実させる栽培方法です。隔年結果しやすい青島温州の性質を逆に利用することで、安定的に収量が確保出来るとともに、間引き摘果に比べ作業量が少なく、どの果実をどのくらい落とすのか悩むこともありません。そこで、この技術を応用し、正面の側枝と裏側の側枝を面単位で交互に結実させる側枝交互結実（写真5）を試み、部分（片面）全摘果による、初心者でもわかりやすく、簡単に出来る着果管理法について検証しています。

双幹形樹形における片面交互結実は、着果が片面に集中しているため、1果実当たりの収穫時間は、双幹形の間引き摘果樹や開心自然形樹に比べ短くなります（表1）。さらに、側枝交互結実は、無摘果の生産面と全摘果する遊休面が列状に同じ側に並ぶため（写真5）、作業動線が直



写真5 側枝交互結実で生産面（無摘果）と遊休面（全摘果）を列状に配置した園地

線状になる垣根仕立ての特性を活かし、収穫、運搬、せん定、摘果等多くの作業において効率的に進めることが出来ます。

五 おわりに

果樹研究センターで試験している

双幹形樹を見学された方々の多くが、慣行栽培の開心自然形に比べ、樹当たりの収量が少なくなるのではないかと心配されます。実際、同じ樹齢の間引き摘果した樹では、双幹形の方が樹当たりの収量は少ない傾向が見られますが、片面交互結実では、着果側により多くの果実がなるため、片面だけでも慣行栽培を上回る収量が得られています（表1）。

双幹形は慣行の立体的な樹形に比べ、作業がしやすいように平面的な形で枝の配置も単純にしております。このため、慣行の間引き摘果や間引きせん定にこだわることなく、より収量性を高める枝管理、着果管理を試みていくことで、高収量を狙うことが出来ると考えています。

今回紹介した双幹形樹は8年生樹で、ようやく生産樹齢にさしかかったところになるため、作業性や生産性について継続して調査を実施し、果樹研究センターの成績として随時で紹介していく予定です。

本研究は「国際競争力強化技術開発プロジェクト」にて実施しています。

連絡先

静岡市清水区茂畑
静岡県農林技術研究所
果樹研究センター

Mail: kaji-kenkyu@pref.shizuoka.jp

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当：食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米流通連絡協議会（事務局：食糧部）は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」（テレビ静岡・全11回放送）に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和5年度の第5回目（9月16日）の放送では、タレントの村上佳菜子さんと本谷美アナウンサーの2人が静岡市から「静岡コシヒカリ」の新米を紹介しました。「静岡コシヒカリ」は、白くピカピカのツヤがあり、もっちりとした粘りと甘みが特徴です。番組では、JA静岡市販売課の石川春光次長が出演し、「静岡コシヒカリ」の魅力を紹介しました。JA静岡市管内では農業や化学肥料の窒素成分を慣行の5割以下に減らして栽培する「特別栽培米」のコシヒカリの生産にも取り組んでいます。

今回の「しずおかごはんが食べたい！」も村上佳菜子さんが藤枝市と焼津市から紹介予定です。ぜひご覧ください！



産地直送通販サイトJAタウンからのお知らせ

お得なキャンペーン実施中です！

JAタウンでは、10月1日（日）～11月30日（木）の「JAグループ国消国産月間」に、「国産農畜産物のお客様送料負担なしキャンペーン」を開催します！

JAグループ

国消国産

お客様の「国産」を食べて応援
キャンペーン実施中
送料負担なし

送料はJAグループが負担します



期間

2023年10月1日～11月末日まで

「国消国産月間」の取り組みの一環として、継続的に国産農畜産物を購入していただくきっかけをつくるため、キャンペーン期間中、全国各地5000以上の農畜産物対象商品をお客様の送料負担なしで購入することができます。

JAタウンの本会ショップ「しずおか手しお屋」でも対象商品をご用意しますので是非ご利用ください！



おいしい日本と暮らそう

JAタウン



しずおか手しお屋 🔍 検索

◀「しずおか手しお屋」ページはこちら

担当：営業部 流通開発課 (TEL:054-284-9728)

JA直売所キャンペーン



実施期間 | 10/1 Sun. ~ 11/30 Thu.



JAグループサポーター 林 修

「国消国産」を知ろう!

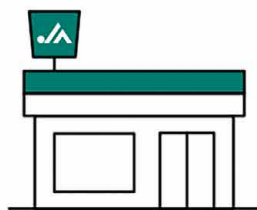
私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産するという考えを「国消国産」と言います。「国消国産」は私たちの生活に深く関わっています。現在、日本の食料自給率は38%で、先進国の中でも最低水準となっており、私たちの食を取り巻くリスクは年々高まっています。この秋は、JA直売所で秋の食材を楽しみながら、「国消国産」を実践してみませんか?



期間中JA直売所を3回訪れて日本全国の美味を当てよう!

キャンペーン参加方法

1 JA直売所に行こう!



2 店内ポスターの
二次元コードを読み込もう!



読み込んで
スタンプGet!

3 何回も訪れ、スタンプが3つ集まったら
賞品を選んで応募しよう!

スタンプGetは
1日1つまで。
集める店舗は
同じでも違ってOK!



3,000円相当

47都道府県とっておきの
農畜産物・加工品が選べる!

各都道府県300名様

合計14,100名様にプレゼント!



JA直売所の検索も!

賞品ラインナップは
特設サイトへ



200名様

SNS投稿賞

JA直売所キャンペーン オリジナルパッケージ米 2kg



JA直売所で買ったものを撮影してSNSに投稿しよう! #JAグループ #乃木坂46 #国消国産 #JA直売所キャンペーン
 ※JA直売所で購入した食材を撮影し、指定のハッシュタグをつけて投稿した方の中から抽選でプレゼント。※詳しい応募条件は特設サイトにて。

JAグループ公式SNSも
チェックしてね!



Instagram
 @yoishoku_ja



X(Twitter)
 @JAyoishoku

本県の提供賞品は「静岡茶ティーバッグ『富士山そだち』抹茶入り」となります!

あなたの気持ちを、お米に込めて：
もらって嬉しいお米のギフト

メッセージライス
Message Rice

新しい“伝えるカタチ” Message Riceを活用しませんか？

お問い合わせ・ご注文

JA静岡経済連 食糧課
〒422-8620 静岡市駿河区曲金3丁目8番1号

Tel.054-284-9737
Mail: p-rice@kei.ja-shizuoka.or.jp

農協のお米 **パールライス**

担当：食糧部 食糧課

